

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文統計学	統計学の基礎	2	木村 邦博	3	水	2	1
人文統計学	推測統計と多変量解析 の基礎	2	木村 邦博	4	水	2	2
人文情報処理	コンピュータを活用した データ処理と情報発信	2	湊 信吾	3	金	2	3
人文情報処理	コンピュータを活用した データ処理と情報発信	2	湊 信吾	4	金	2	4
英語演習	学術英語演習	2	中西 弘	4	木	2	5
高等英文解釈法	高等英文解釈法	2	鈴木 亨	4	金	2	6
英語論文作成法	Academic Writing I	2	マックス・フィリップス	3	水	2	7
英語論文作成法	Academic Writing II	2	マックス・フィリップス	4	水	2	8
ギリシャ語	ホメロス『イリアス』演習	2	尾園 絢一	3	月	4	9
ギリシャ語	ホメロス『イリアス』演習	2	尾園 絢一	4	月	4	10
ギリシャ語	古典ギリシャ語文法初 級	2	尾園 絢一	3	金	3	11
ギリシャ語	古典ギリシア語文法初 級	2	尾園 絢一	4	金	3	12
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	3	火	3	13
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	4	火	3	14
ラテン語	ラテン語初級講読	2	宮崎 正美	4	金	3	15
ラテン語	ラテン語初級文法	2	嶺岸 佑亮	3	金	4	17
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演 習(1)	2	西村 直子	3	木	3	18
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演 習(2)	2	尾園 絢一	4	木	3	19
中国語	初級中国語	2	馬 暁地	3	月	3	20

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国語	初級中国語	2	馬 暁地	4	月	3	21
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	3	水	2	22
朝鮮語	韓国語初級	2	権 来順	4	水	2	23
イタリア語	イタリア語初級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	3	24
イタリア語	イタリア語初級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	3	25
イタリア語	イタリア語中級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	4	26
イタリア語	イタリア語中級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	4	27
イタリア語	イタリア語上級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	5	28
イタリア語	イタリア語上級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	5	29
イタリア語	イタリア語初級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	木	3	30
イタリア語	イタリア語初級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	木	3	31
イタリア語	イタリア語中級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	木	4	32
イタリア語	イタリア語中級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	木	4	33
専門中国語	中国語作文	2	馬 暁地	3	金	4	34
専門中国語	中国語作文	2	馬 暁地	4	金	4	35
専門ドイツ語	テキスト読解のための ドイツ語	2	嶋崎 啓	4	木	1	36
専門フランス語	フランス語の文章を読む	2	翠川 博之	3	火	2	37
専門フランス語	フランス語の文章を読む	2	翠川 博之	4	火	2	38
漢文講読	漢文訓読入門(文法 篇)	2	尾崎 順一郎	3	金	3	39

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
漢文講読	漢文訓読入門(故事成語篇)	2	尾崎 順一郎	4	金	3	40
人文社会科学総合	臨床宗教師とスピリチュアルケア	2	谷山 洋三	4	月	2	41
人文社会科学総合	死から生を考える臨床死生学:人間の死とは何か?	2	大村 哲夫	3	月	3	42
人文社会科学総合	悲嘆学試論	2	大村 哲夫	4	月	3	43
人文社会科学総合	よりよい研究のための倫理	2	原 塑	3	月	4	44
人文社会科学総合	近代日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	3	火	2	45
人文社会科学総合	日本文化と社会	2	クレイグ クリストファー	4	火	2	46
人文社会科学総合	宗教、スピリチュアリティ、心理療法	2	高橋 原	4	水	3	47
人文社会科学総合	研究と実践の倫理	2	行場 次朗, 戸島 貴代志, 阿部 恒之, 木村 邦博, 坂井 信之, 辻本 昌弘, 小林 隆, 小泉 政利	4	水	5	48
人文社会科学総合	死生学と宗教文化	2	高橋 原, 大村 哲夫	3	木	5	49
人文社会科学総合	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践	2	高橋 原, 木村 敏明, 谷山 洋三	4	木	5	50

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB33206, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統計学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Statistics

3. 授業の目的と概要：

統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

4. 学習の到達目標：

官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データと測定 (1)
2. データと測定 (2)
3. 度数分布と比率 (1)
4. 度数分布と比率 (2)
5. 代表値と変動 (1)
6. 代表値と変動 (2)
7. グラフによるデータの表現 (1)
8. グラフによるデータの表現 (2)
9. クロス集計表 (1)
10. クロス集計表 (2)
11. 関連の測度 (1)
12. 関連の測度 (2)
13. 3 変数間の関係を考える（因果関係、相関関係、疑似相関） (1)
14. 3 変数間の関係を考える（因果関係、相関関係、疑似相関） (2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（10 回）による。

7. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ（海野他訳）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。

9. その他：なし

- (1) 人文統計学（推測統計と多変量解析の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

推測統計と多変量解析の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Statistical Inference and Multivariate Analysis

3. 授業の目的と概要：

より高度な統計学の基礎を学ぶ。

特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析、パス解析などの手法について理解する。

4. 学習の到達目標：

「統計学の基礎」をふまえて、より高度な統計的方法を理解するための基本事項について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統計的推測と仮説検定(1)：確率論の基礎
2. 統計的推測と仮説検定(2)：統計的推定
3. 統計的推測と仮説検定(3)：統計的検定の理論
4. 2 平均値の差の検定(1)
5. 2 平均値の差の検定(2)
6. 複数平均値の差の検定(1)
7. 複数平均値の差の検定(2)
8. 2 変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度
9. 2 変数の関連の分析：相関係数
10. 2 変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬
11. 回帰分析の基礎(1)
12. 回帰分析の基礎(2)
13. 重回帰分析(1)
14. 重回帰分析(2)
15. 因果モデルとパス分析の基礎

6. 成績評価方法：

レポート(10 回)による。

7. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ（海野他訳）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。

9. その他：なし

- (1) 人文統計学（統計学の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 D に対応。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：湊 信吾（非常勤講師）

講義コード：LB35205, **科目ナンバリング：**LHM-HUI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目)：

Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。
- ・Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- ・SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- ・プログラミング言語 Python を用いプログラミングの練習を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- ・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・Python を使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. R を利用したデータ解析とグラフの作成
8. PowerPoint を使用したスライドの作成
9. Access で SQL を使用したデータベースの操作
- 10～13. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
- 14、15. Python プログラミング (基本とライブラリの利用)

6. 成績評価方法：

毎回、授業時間内にレポートを印刷し提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

7. 教科書および参考書：

毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

8. 授業時間外学習：

テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。

9. その他：なし

オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトの URL を教える。

教室の都合で履修人数を制限することがある。第 4 セメスターにも同内容の授業を開講するので、いずれかを履修すればよい。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：湊 信吾（非常勤講師）

講義コード：LB45206, **科目ナンバリング：**LHM-HUI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目)：

Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。
- ・Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- ・SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- ・プログラミング言語 Python を用いプログラミングの練習を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- ・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・Python を使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. R を利用したデータ解析とグラフの作成
8. PowerPoint を使用したスライドの作成
9. Access で SQL を使用したデータベースの操作
- 10～13. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
- 14、15. Python プログラミング (基本とライブラリの利用)

6. 成績評価方法：

毎回、授業時間内にレポートを印刷し提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

7. 教科書および参考書：

毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

8. 授業時間外学習：

テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。

9. その他：なし

オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトの URL を教える。

教室の都合で履修人数を制限することがある。第 3 セメスターにも同内容の授業を開講するので、いずれかを履修すればよい。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：中西 弘（非常勤講師）

講義コード：LB44203, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

学術英語演習

2. Course Title (授業題目)：

Reading Academic English

3. 授業の目的と概要：

主に心理言語学（言語習得・言語理解の心的メカニズム）を扱った英語論文の精読を行い、内容を正確につかむ訓練をする。さらに、その内容に関して、意見を述べ（Paragraph Writing）、言い換え（Paraphrasing）、要約する（Summarizing）ライティング活動を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 学術的な英語の文章を正確に読む力を身につける。
- (2) 学術的な英語の文章を読んで、意見を述べたり、内容をまとめたりする力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 こどもの言語獲得にまつわる文献(プロソディの知覚) +Paragraph Writing(1)
- 2 こどもの言語獲得にまつわる文献(分節音の知覚) +Paragraph Writing(2)
- 3 こどもの言語獲得にまつわる文献(模倣が言語習得に果たす役割)+Paragraph Writing(3)
- 4 こどもの言語獲得にまつわる文献(母親語が言語習得に果たす役割)+Paragraph Writing(4)
- 5 こどもの言語獲得にまつわる文献(名詞・動詞の獲得プロセス) +Paragraph Writing(5)
- 6 授業のまとめと中間試験
- 7 記憶にまつわる文献（短期記憶・長期記憶の仕組み）+Paraphrasing(1)
- 8 記憶にまつわる文献（メンタルレキシコンの仕組み）+Paraphrasing(2)
- 9 記憶にまつわる文献（復唱技術と言語習得）+Paraphrasing(3)
- 10 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献(統語処理プロセス)+Paraphrasing(4)
- 11 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（チャンキングプロセス）+Summarizing(1)
- 12 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（プロソディの役割）+Summarizing(2)
- 13 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（推論のメカニズム）+Summarizing(3)
- 14 英語学習にまつわる文献(シャドーイングの認知メカニズム)+Summarizing(4)
- 15 授業のまとめと期末試験

6. 成績評価方法：

授業への取り組み姿勢(40%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

十分に予習して授業に臨んでください

9. その他：なし

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：鈴木 亨（非常勤講師）

講義コード：LB45207, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

高等英文解釈法

2. Course Title (授業題目)：

Reading Skills in English

3. 授業の目的と概要：

様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、評論、映画脚本、歌詞、雑誌記事など）を素材に、実践的な英語の読解力を養成する。文及びパラグラフにおける構造的な特徴に注意して、正確な読解に取り組むことが求められる。

4. 学習の到達目標：

文章の構成における論理的かつ構造的な特徴をきちんと把握することにより、様々な英文スタイルの特性に応じて、必要で正確な読解ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Reading Literary Fiction
3. Judy Moody Gets Famous
4. Akeelah and the Bee
5. 11/22/63 (1)
6. 11/22/63 (2)
7. How Pleasure Works (1)
8. How Pleasure Works (2)
9. Looking for Rachel Wallace
10. What Money Can't Buy (1)
11. What Money Can't Buy (2)
12. Song Lyrics
13. Reclaiming Conversation (1)
14. Reclaiming Conversation (2)
15. 学期末試験と解説

6. 成績評価方法：

学期末試験および学期中に提出してもらう課題（学期中に 3 回、内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読んで、その内容についての質疑応答や議論に備える。

9. その他：なし

使用するテキストはあらかじめ配布する。辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LB33207, **科目ナンバリング：**LHM-ENG203E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Academic Writing I

2. Course Title (授業題目)：

Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：

This course is designed as an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

4. 学習の到達目標：

Students will learn that because English writing is a process, not a product, organizational expectations must be met. The course is designed to help students meet those expectations by teaching how to logically organize writing.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

6. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.

7. 教科書および参考書：

Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

8. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.

9. その他：なし

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LB43206, **科目ナンバリング：**LHM-ENG203E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：

Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：

This course is a continuation of AWI. Therefore, the prerequisite for entering AWII is satisfactory completion of AWI. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize their research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material.

4. 学習の到達目標：

Students will do original research and write a fully documented research paper.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Oral Presentations of Research Paper

6. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.

7. 教科書および参考書：

Course syllabus based, in part, on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.

8. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.

9. その他：なし

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB31405, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ホメロス『イリアス』演習

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Homer's Iliad

3. 授業の目的と概要：

ギリシア最古の文学作品であり、インド・ヨーロッパ語比較言語学における第1級の資料でもあるホメロスの叙事詩を講読する。トロイア戦争を舞台にした『イリアス』を第17巻から講読する。講読では、受講者に訳してもらい、教員が Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等の研究書を用いて、語形一つ一つについて音韻、活用、造語法、語源、アイオリス、イオニア、アッティカ諸方言の特徴などの視点から解説する。

4. 学習の到達目標：

- ・ホメロス叙事詩を訳すことができるようになる
- ・語形を文法的・語源的に分析できるようになる
- ・ギリシア語歴史文法の基礎を習得する
- ・辞書、文法書、専門書を使いこなすようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション、インド・ヨーロッパ語族とギリシア語派、ホメロス叙事詩の言語、韻律と音読
2. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (1)
3. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (2)
4. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (3)
5. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (4)
6. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (5)
7. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (6)
8. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (7)
9. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (8)
10. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (9)
11. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (10)
12. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (11)
13. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (12)
14. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (13)
15. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (14)

6. 成績評価方法：

出席 (40%)、毎回の予習 (30%) 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

テキストはオックスフォード大学古典テキストのコピーを配布する。辞書は Liddel&Scott, Greek English Lexicon (Abridged Edition) を使用すること。[A copy of text to read (Oxford Classical Texts) will be prepared by the instructor. It is recommended to use Liddel&Scott's Greek English Lexicon (Abridged Edition).]

文法書[Grammar]

Chantraine, Grammaire homérique, Pharr-Wright, Homeric Greek (concise grammar of Homeric Greek)

語源辞典[etymological dictionary]

Frisk, Etymologisches Wörterbuch des Griechischen, Beekes, Etymological dictionary of Greek

歴史文法, その他[historical grammar and other references]

Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache

8. 授業時間外学習：

毎回10～15行の予習が必要となる。復習を行い、授業で得た知識を使えるようになることを心がけること。[Participants are required to translate 11-15 lines of the text in advance, and expected to review knowledge learned in classes and to apply it.]

9. その他：なし

参加者は古典ギリシア語初級の知識を有すること。

[Participants are expected to have basic understanding of classical Greek.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB41406, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ホメロス『イリアス』演習

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Homer's Iliad

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、『イリアス』を第17巻を講読する。講読では受講者に訳してもらい、教員が Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等の専門書を用いて語形一つ一つについて音韻、活用、造語法、語源、方言の特徴等視点から分析し、解説を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・ホメロス叙事詩を訳すことができるようになる
- ・語形を文法的・語源的に分析できるようになる
- ・ギリシア語歴史文法の基礎を習得する
- ・辞書、文法書、専門書を使いこなすようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (1)
2. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (2)
3. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (3)
4. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (4)
5. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (5)
6. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (6)
7. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (7)
8. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (8)
9. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (9)
10. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (10)
11. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (11)
12. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (12)
13. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (13)
14. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (14)
15. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (15)

6. 成績評価方法：

出席 (40%), 毎回の予習 (30%) 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

テキストはオックスフォード大学古典テキストのコピーを配布する。辞書は Liddel&Scott, Greek English Lexicon (Abridged Edition) を使用すること。[A copy of the text to read (Oxford Classical Texts) will be prepared by the instructor. It is recommended to use Liddel&Scott's Greek English Lexicon (Abridged Edition).]

文法書 [Grammar]

Chantraine, Grammaire homérique, Pharr-Wright, Homeric Greek (concise grammar of Homeric Greek)

語源辞典 [etymological dictionary]

Frisk, Etymologisches Wörterbuch des Griechischen, Beekes, Etymological dictionary of Greek

歴史文法, その他 [historical grammar and other references]

Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache

8. 授業時間外学習：

毎回10～15行の予習が必要となる。復習を行い、授業で得た知識を使えるようになることを心がけること。[Participants are required to translate 11-15 lines of the text in advance, and expected to review knowledge learned in classes and to apply it.]

9. その他：なし

参加者は古典ギリシア語初級の知識を有すること。前期と合わせて受講することが推奨される。

[Participants are expected to have basic understanding of classical Greek. It is recommended to take this class along with the course "Seminar on Homer's Iliad" in summer semester.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB35305, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典ギリシャ語文法初級

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Grammar of classical Greek

3. 授業の目的と概要：

古典ギリシア語を初めて学ぶ人を対象に文字の読み方から始め、練習問題を解きながら文法を習得する。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. 学習の到達目標：

古典ギリシア語文法の基礎を習得し、ギリシア語の簡単な文を訳せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インド・ヨーロッパ語族とギリシア語派。アルファベット、発音、アクセント、音韻論
2. 動詞組織、現在直説法能動態の動詞変化、第1変化名詞 (PIE *-eh2-)
3. 未来直説法能動態の動詞変化、第1変化名詞 (PIE *-ih2-), 第1変化男性名詞
4. 未完了能動態の動詞変化、第2変化名詞・形容詞、前置詞
5. アオリスト直説法能動態の動詞変化、完了、過去完了直説法能動態の動詞変化、指示代名詞、強意代名詞
6. 繫辞 (copula) と後倚辞、疑問代名詞、不定代名詞
7. 現在直説法、未完了、未来の中動態の動詞変化、人称代名詞
8. アオリスト、完了、過去完了、未完了の中動態の動詞変化、再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞
9. 第2アオリスト、受動アオリスト (ē-アオリスト, thē-アオリスト)、第3変化名詞 (1)
10. 第3変化名詞 (2)、約音動詞 (verba contracta)
11. 黙音語幹動詞 (verba muta)、第3変化 (子音語幹) 形容詞の変化 (1)
12. 流音語幹動詞 (verba liquida)、第3変化 (子音語幹) 名詞の変化 (3)
13. 接続法能動態の動詞変化
14. 接続法中動態の動詞変化
15. 母音交替 (アブラウト)、形容詞 mégas polús の変化

6. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

7. 教科書および参考書：

教科書 [textbook]

田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』改訂版 (岩波全書 1996 年、新装版 2012 年)

最初の授業で紹介するので、入手すること。

[Students are required to have the textbook, which will be introduced at the beginning of the course]

詳しい文法書 [recommended reference grammars]

英語: W. Goodwin: Greek Grammar (Blaisdell, 1965), Herbert W. Smyth: Greek Grammar (Harvard University Press 1956), etc.

ドイツ語: Bornemann-Risch: Griechische Grammatik (Diesterweg 2008), Zinsmeister: Griechische Grammatik, Teil I (Winter 2006), etc.

8. 授業時間外学習：

指示された練習問題を解いておくこと。文法事項を丸暗記するのではなく、ギリシア語の仕組みを理解することが大事である。[Students are required to do assigned exercises in advance. It is important not to learn grammatical rules by heart but to understand the mechanism of Greek grammar.]

9. その他：なし

後期と合わせて受講することが望ましい。

[It is recommended to take this class along with the course "Elementary Grammar of classical Greek" in winter semester.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB45305, 科目ナンバリング：LHM-0FL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典ギリシア語文法初級

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Grammar of classical Greek

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、練習問題を解きながら文法や語彙の理解を深める。後期は動詞の法 (modi)、格の用法などの統語論も学ぶ。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻法則や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. 学習の到達目標：

古典ギリシア語初級文法を習得し、平易なギリシア語の文章を訳せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 条件文、約音名詞 (nomina contracta) の変化、アッティカ第 2 名詞変化、約音動詞 (verba contracta) の接続法
2. 予想的未来 (prospective) を表わす条件文、不定詞の作り方と用法、補語的不定詞 (accusativus cum infinitivo)
3. 第 3 変化名詞 (4)、関係代名詞
4. 希求法能動態と中受動態、第 3 変化形容詞 (1)
5. 可能的未来 (potential) を表わす条件文、第 3 変化名詞 (5)
6. 分詞の作り方と用法、第 3 変化名詞 (6)
7. 補語的分詞 (accusativus cum participio)、分詞の独立用法
8. 形容詞の比較、可能性 (potentialis) を表わす希求法、数詞、形容詞の比較の不規則変化
9. 普遍的又は反復的事態 (iterative) を表わす条件文、副詞および副詞の比較
10. 命令法能動態と中受動態、約音動詞 (verba contracta) の命令法、述語的分詞をとる動詞
11. 間接話法 (1) - (2)
12. 動詞的形容詞、間接話法 (3)、否定詞
13. 無幹母音型動詞 (mi 動詞) の変化 (語根型、重複型)
14. 無幹母音型動詞 (mi 動詞) の変化 (鼻音挿入型)
15. 統語論 (格の用法、文の種類)

6. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

7. 教科書および参考書：

教科書 [textbook]

田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』改訂版 (岩波全書 1996 年、新装版 2012 年)

最初の授業で紹介するので、入手すること。

[Students are required to have the textbook, which will be introduced at the beginning of the course]

詳しい文法書 [recommended reference grammars]

英語: W. Goodwin: Greek Grammar (Blaisdell, 1965), Herbert W. Smyth: Greek Grammar (Harvard University Press 1956), etc.

ドイツ語: Bornemann-Risch: Griechische Grammatik (Diesterweg 2008), Zinsmeister: Griechische Grammatik, Teil I (Winter 2006), etc.

8. 授業時間外学習：

指示された練習問題を解いておくこと。文法事項を丸暗記するのではなく、ギリシア語の仕組みを理解することが大事である。[Students are required to do assigned exercises in advance. It is important not to learn grammatical rules by heart but to understand the mechanism of Greek grammar.]

9. その他：なし

前期と合わせて受講することが望ましい。

[It is recommended to take this class along with the course "Elementary Grammar of classical Greek" in winter semester.]

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB32305, 科目ナンバリング：LHM-0FL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。（わからない点について積極的に質問してください。）

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。（参考までに、前年度にはルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」のごく一部を読みしました。前々年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のごく一部を、さらにその年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アクィナス『神学大全』のごく一部を読みしました。）

4. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

6. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

（試験は行わず、レポート提出もありません。）

7. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。

8. 授業時間外学習：

復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

9. その他：なし

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB42306, 科目ナンバリング：LHM-0FL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。（わからない点について積極的に質問してください。）

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。（参考までに、前年度にはルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」のごく一部を読みしました。前々年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のごく一部を、さらにその年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アクィナス『神学大全』のごく一部を読みしました。）

4. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

6. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

（試験は行わず、レポート提出もありません。）

7. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。

8. 授業時間外学習：

復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

9. その他：なし

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：宮崎 正美（非常勤講師）

講義コード：LB45306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語初級講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading original Latin text (for beginner)

3. 授業の目的と概要：

ラテン語テキストの基本読解

4. 学習の到達目標：

さまざまなラテン語テキスト（古代～現代）を、読み理解できるようになること。

併せて、古代のテキストの本文批判 (Textkritik) とその過程で、ラテン語がどのように用いられ役立ってきたか、実例を通して理解できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

・ガイダンス

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（概説）

・古文書と本文批判について（概説）

2.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（1）

・古文書と本文批判について（1）

・読解（1）

3.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（2）

・古文書と本文批判について（2）

・読解（2）

4.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（3）

・古文書と本文批判について（3）

・読解（3）

5.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（4）

・古文書と本文批判について（4）

・読解（4）

6.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（5）

・古文書と本文批判について（5）

・読解（5）

7.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（6）

・古文書と本文批判について（6）

・読解（6）

8.

前半のまとめ

・聖ヒッポリュトス『使徒伝承』とキリスト教典礼について

・〈翻訳〉という問題について

9.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（7）

・古文書と本文批判について（7）

・読解（7）

10.

・古文書と本文批判について（8）

・読解（8）

11.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（9）

・古文書と本文批判について（9）

・読解（9）

12.

- ・ “TRADITIO APOSTOLICA” について (10)
- ・ 古文書と本文批判について (10)
- ・ 読解 (10)

13.

- ・ “TRADITIO APOSTOLICA” について (11)
- ・ 古文書と本文批判について (11)
- ・ 読解 (11)

14.

- ・ “TRADITIO APOSTOLICA” について (12)
- ・ 古文書と本文批判について (12)
- ・ 読解 (12)

15.

- ・ 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

出席点(30%), レポート(50%), 課題(20%).

7. 教科書および参考書：

授業で使用する資料は、適宜、印刷して配付する.

[References are handed out at classes.]

8. 授業時間外学習：

授業で指定された予習・復習および課題を、必ずやっておくこと.

[Students are required to prepare for the assigned part of the designated text for each class. They are also required to make a thorough review.]

9. その他：なし

[This course will be taught in Japanese.]

参考書：B. ボット著、土屋吉正訳『聖ヒッポリュトスの使徒伝承—B. ボットの批判版による初訳』（オリエンツ宗教研究所、1999 年）

B. M. メッツガー著、土岐健治監訳『図説 ギリシア語聖書の写本——ギリシア語古文書学入門』（教文館 1985 年）

F. G. ケニオン著、高津春繁訳『古代の書物』（岩波新書 1953 年）

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮（非常勤講師）

講義コード：LB35404, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語初級文法

2. Course Title (授業題目)：

Primary Latin

3. 授業の目的と概要：

古代ローマから近代に至るまで広く用いられてきた言語であるラテン語に実際に触れ、名詞・形容詞・動詞等の変化を習得することで、実際のテキストに触れるための基礎の獲得を目指す。

4. 学習の到達目標：

名詞・形容詞・動詞の活用を、文法書を見ながら自分で一通り出来るようになること。 比較的簡単な文章を理解することが出来るようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。文字・発音・アクセントなど。名詞の活用（その1）。

第2回：名詞・形容詞の活用。動詞の活用（その1：現在形）。

第3回：動詞の活用（その2：現在形、および命令法）。

第4回：名詞・形容詞の活用（第3変化形、および第4, 5変化形）。

第5回：動詞の活用（その3：直接法の未完了過去、および未来）。

第6回：代名詞（その1：人称代名詞、指示代名詞、再帰代名詞）。

第7回：代名詞（その2：強意代名詞、不定代名詞など）。

第8回：動詞の活用（その4：直接法の完了、過去完了、未来完了）。

第9回：分詞・動名詞・動形容詞。

第10回：動詞の活用（その5：直接法の受動態）。

第11回：動詞の活用（受動態の続き）、形式受動態動詞、不定法。

第12回：関係代名詞、副詞、前置詞。

第13回：比較、数詞、接続法（その1）。

第14回：接続法（その2）、非人称構文、絶対的奪格。

第15回：接続法（その3）、ならびに試験。

6. 成績評価方法：

出席：10% 授業時の課題、音読など：60% テスト（筆記試験またはレポート）：30%

7. 教科書および参考書：

山下太郎著、『しっかり学ぶ初級ラテン語 文法と練習問題』。また、必要に応じてプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業時に指定された課題を欠かさず予習・復習すること。名詞・形容詞。動詞の活用を、自分で声に出したり、紙に書いたりしながら何度も繰り返すこと。

9. その他：なし

・To do one's lessons and review exercises assigned.

・To try to inflect again and again with voice and writing on paper.

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-0FL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

サンスクリット語基礎演習 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Sanskrit (Introductory Seminar 1)

3. 授業の目的と概要：

ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。

4. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の韻文が読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODakShION (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
- 2 『ナラ王物語』第1章 (ナラとダマヤンティーの生い立ち) 1-3
- 3 同 4-6
- 4 同 7-10
- 5 同 11-14
- 6 同 15-19
- 7 同 20-22, 第2章 (ダマヤンティーの婿選びへ) 1-2
- 7 同 3-7
- 8 同 8-14
- 9 同 15-21
- 10 同 22-28
- 12 同 29-30, 第3章 (ナラとダマヤンティーの出会い) 1-5
- 13 同 6-12
- 14 同 13-19
- 15 同 20-25

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：なし

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気があって相応の時間をかけることのできる人は、サンスクリット語初級と同時に始めることも可能。また、第3、4セメスターのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

サンスクリット語基礎演習（2）

2. Course Title（授業題目）：

Sanskrit (Introductory Seminar 2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。

4. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 ナラ王物語第4章（ナラ王とダマヤンティーの会話）1－7
- 3 ナラ王物語第4章 8－15
- 4 ナラ王物語第4章 16－23
- 5 ナラ王物語第4章 24－31
- 6 ナラ王物語第5章（婿選びの儀式）1－9
- 7 ナラ王物語第5章 10－18
- 8 ナラ王物語第5章 19－27
- 9 ナラ王物語第5章 V 28－36
- 10 ナラ王物語第5章 V 37－46
- 11 ヒトーパデーシャ「有益な教え」、イントロダクション、プロローグ 1
- 12 プロローグ 2
- 13 プロローグ 2
- 14 第1巻寓話2「老いた虎と旅人」
- 15 第1巻寓話2「老いた虎と旅人」

6. 成績評価方法：

平常点（40％）、予習（30％）、授業内容の理解度（30％）

7. 教科書および参考書：

Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar

8. 授業時間外学習：

一つ一つの語形を確定し、指定された部分を訳しておくこと。

9. その他：なし

サンスクリット初級の知識を有すること。第3セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習（1）と合わせて受講するのが望ましい。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB31301, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

初級中国語

2. Course Title (授業題目)：

Primary Chinese

3. 授業の目的と概要：

発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。

4. 学習の到達目標：

汉语拼音(中国語の音標としてのローマ字)を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 四声の練習

第2回 子音の練習

第3回 母音の練習

第4回 同上

第5回 名前の訪ね方

第6回 形容詞述語文

第7回 同上

第8回 同上

第9回 動詞述語文

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 朗読試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB41302, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

初級中国語

2. Course Title (授業題目)：

Primary Chinese

3. 授業の目的と概要：

発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。

4. 学習の到達目標：

汉语拼音(中国語の音標としてのローマ字)を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 四声の練習
- 第2回 子音の練習
- 第3回 母音の練習
- 第4回 量詞について
- 第5回 同上
- 第6回 助詞について
- 第7回 同上
- 第8回 副詞について
- 第9回 同上
- 第10回 補語について
- 第11回 使役文
- 第12回 同上
- 第13回 受身の表現
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 朗読試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：権 来順（非常勤講師）

講義コード：LB33208, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

韓国語入門

2. Course Title (授業題目)：

Korean for Beginners

3. 授業の目的と概要：

韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。

4. 学習の到達目標：

学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション：朝鮮半島の言語について
- 2 基本母音（単母音）と基本子音の学習
- 3 子音の激音・濃音、合成母音 11 文字の練習
- 4 一つ文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習
- 5 二つ文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習
- 6 日本語のハングル文字表記の練習
- 7 自己紹介の練習
- 8 指示代名詞と所有の表現
- 9 名詞文の肯定形と疑問形
- 10 名詞文の否定形
- 11 位置関係の表現
- 12 漢字語数詞、日付、曜日などの表現
- 13 固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現
- 14 形容詞の表現
- 15 まとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点

7. 教科書および参考書：

『かんたん！韓国語』著者 権来順 外 3 人（朝日出版社）、参考資料のプリント配布

8. 授業時間外学習：

毎回の内容を復習すること

9. その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：権 来順（非常勤講師）

講義コード：LB43207, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

韓国語初級

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Korean

3. 授業の目的と概要：

韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。

4. 学習の到達目標：

日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 現在形の用言活用 1 (規則活用)
- 3 現在形の用言活用 II (規則活用)
- 4 現在形の用言活用 (変則活用)
- 5 名詞文の過去表現
- 6 過去形の用言活用 1 (規則活用)
- 7 過去形の用言活用 II (規則活用)
- 8 過去形の用言活用 (変則活用)
- 9 願望を表す表現
- 10 羅列、逆接を表す表現
- 11 目的を表す表現
- 12 尊敬語に関して
- 13 意志を表す表現
- 14 計画を表す表現
- 15 まとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点

7. 教科書および参考書：

『かんたん！韓国語』著者 権来順 外 3 人 (朝日出版社)、参考資料のプリント配布

8. 授業時間外学習：

毎回の内容を復習すること

9. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語初級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Beginner)

3. 授業の目的と概要：

日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コースの紹介。
2. 発音とアルファベット。
3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。
4. 形容詞と挨拶。
5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。
6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。
7. -are 規則動詞の直接法現在形。
8. 丁寧な表現。
9. 数字と聞き取り練習。
10. 小テストと-ere の規則動詞の直接法現在形。
11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。
12. 復習と聞き取り練習。
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語初級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. -ere 規則動詞の直接法現在形。
3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。
4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。
5. C'è と ci sono。
6. 聞き取り練習と復習。
7. 小テストと時刻。
8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。
9. 会話の練習と-ire 規則動詞の直接法現在形その二。
10. Mi piace の使い方。
11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。
12. 再帰動詞。
13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB33407, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語中級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. Dov'è? C'è? の使い方。
3. Quanto costa? と会話の練習。
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 読解の練習と復習。
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。
8. 聞き取り練習と非人称動詞。
9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
10. 直接法近過去その一。
11. 直接法近過去その二。
12. 小テストと会話の練習。
13. 直接法近過去その三。
14. 代名詞と会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43409, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語中級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 不規則動詞の直接法近過去。
3. 聞き取りと会話の練習。
4. 読解の練習と相対最上級。
5. 小テストと代名詞。
6. 疑問詞。
7. 会話の練習と序数詞。
8. 部分補語。
9. 聞き取りと会話の練習。
10. 読解の練習と小テスト。
11. 人称代名詞。
12. 会話の練習。
13. 絶対最上級。
14. 会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB33504, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語上級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：

この講義では、文法は学生の学習が不完全な部分を補う程度にとどめる。読解や場合によっては翻訳も行なえるように、日常的事物や本で使われるような複雑な筋からなる文章の理解に向けた、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 小テストと直接法未来形。
4. Gerundio と進行動詞。
5. 会話と読解の練習。
6. 会話と聞き取りの練習。
7. 読解の練習と小テスト。
8. 直接法近過去と反過去その一。
9. 会話と読解の練習。
10. 直接法近過去と反過去その二。
11. 会話と読解の練習。
12. 人称代名詞。
13. 会話と読解の練習。
14. 聞き取り練習とテストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。

7. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43504, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語上級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、様々なテキストの読解、翻訳を行ない、日常的な会話表現、聞き取りに関してもさらに練習を行なっていく。イタリア文化についてのトピックをとりあげ、それに関する語彙、知識を深め、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 接続法現在形。
4. 会話と読解の練習。
5. 聞き取り練習と復習。
6. 会話と読解の練習。
7. 条件法と接続法。
8. 会話と読解の練習。
9. 聞き取り練習と復習。
10. 直接法の遠過去と大過去。
11. 会話と読解の練習。
12. 聞き取り練習と復習。
13. 復習。
14. テストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。

7. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB34304, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語初級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コースの紹介。
2. 発音とアルファベット。
3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。
4. 形容詞と挨拶。
5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。
6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。
7. -are 規則動詞の直接法現在形。
8. 丁寧な表現。
9. 数字と聞き取り練習。
10. 小テストと-ere の規則動詞の直接法現在形。
11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。
12. 復習と聞き取り練習。
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語初級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. -ere 規則動詞の直接法現在形。
3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。
4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。
5. C'è と ci sono。
6. 聞き取り練習と復習。
7. 小テストと時刻。
8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。
9. 会話の練習と-ire 規則動詞の直接法現在形その二。
10. Mi piace の使い方。
11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。
12. 再帰動詞。
13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB34401, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語中級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. Dov'è? C'è? の使い方。
3. Quanto costa? と会話の練習。
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 読解の練習と復習。
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。
8. 聞き取り練習と非人称動詞。
9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
10. 直接法近過去その一。
11. 直接法近過去その二。
12. 小テストと会話の練習。
13. 直接法近過去その三。
14. 代名詞と会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB44401, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

イタリア語中級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 不規則動詞の直接法近過去。
3. 聞き取りと会話の練習。
4. 読解の練習と相対最上級。
5. 小テストと代名詞。
6. 疑問詞。
7. 会話の練習と序数詞。
8. 部分補語。
9. 聞き取りと会話の練習。
10. 読解の練習と小テスト。
11. 人称代名詞。
12. 会話の練習。
13. 絶対最上級。
14. 会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB35405, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

中国語作文

2. Course Title (授業題目)：

Chinese writing

3. 授業の目的と概要：

基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時にやり、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。

4. 学習の到達目標：

一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 “是” 動詞の翻訳練習
- 第2回 “有” 動詞の翻訳練習
- 第3回 “在” 動詞の翻訳練習
- 第4回 自由作文の講評
- 第5回 形容詞述語文の翻訳練習
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 自由作文の講評
- 第9回 動詞述語文の翻訳練習
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 自由作文の講評
- 第13回 名詞述語文の翻訳練習
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 作文試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB45405, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：2ヵ国語以上

1. 授業題目：

中国語作文

2. Course Title (授業題目)：

Chinese writing

3. 授業の目的と概要：

基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時にやり、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。

4. 学習の到達目標：

一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 疑問文の翻訳練習

第2回 同上

第3回 同上

第4回 自由作文の講評

第5回 助詞の翻訳練習

第6回 同上

第7回 同上

第8回 自由作文の講評

第9回 複雑句の翻訳練習

第10回 同上

第11回 同上

第12回 自由作文の講評

第13回 複雑句の翻訳練習

第14回 同上

第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 作文試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：専門ドイツ語／ Advanced German

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LB44105, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

テキスト読解のためのドイツ語

2. Course Title (授業題目)：

Reading german texts

3. 授業の目的と概要：

論説文、小説、エッセーなど様々なタイプのドイツ語の文を読むことにより、ドイツ語の文法の理解を定着させ、構文を分析的に解説する力を養うことを目指す。無理なく理解が進むよう初級文法を復習しながらゆっくり授業を進める予定である。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語のテキストを自力で読むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 物語文の講読 1
- 3 笑話の講読 1
- 4 新聞記事の講読 1
- 5 エッセーの講読 1
- 6 哲学的論説文の講読 1
- 7 物語文の講読 2
- 8 笑話の講読 2
- 9 新聞記事の講読 2
- 10 エッセーの講読 2
- 11 哲学的論説文の講読 2
- 12 物語文の講読 3
- 13 笑話の講読 3
- 14 詩の講読
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回予習が必要です。細かく辞書を引いてください。授業の最後には課題が出されます。

9. その他：なし

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：翠川 博之（非常勤講師）

講義コード：LB32206, **科目ナンバリング：**LHM-FRE201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語の文章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read a French text

3. 授業の目的と概要：

2000 年に公開された J.P.=サルトルの未刊のシナリオ「レジスタンス」をテキストに用いて、その全文を読みます。この映画シナリオは、ナチス・ドイツ占領期にあたる 43 年から 44 年のあいだに創作されました。執筆そのものがサルトルにとってのレジスタンスだったと言えるでしょう。戦時下のドキュメントとしても読める興味深いテキストであるうえ、まさに映像がまぶたに浮かぶ力作です。

この作品を授業で読む目的は二つあります。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を正確に読むスキルの習得。文学的表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をします。訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術をものにしましょう。

4. 学習の到達目標：

- ① 高度な文法知識を身につけて、文章を正確に読めるようになる
- ② 一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる
- ③ 文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 テキストの背景説明
- 2 訳読：テキスト p. 1～p. 2
- 3 訳読：テキスト p. 2～p. 3
- 4 訳読：テキスト p. 4～p. 5
- 5 訳読：テキスト p. 5～p. 6
- 6 訳読：テキスト p. 7～p. 8
- 7 訳読：テキスト p. 8～p. 9
- 8 訳読：テキスト p. 10～p. 11
- 9 訳読：テキスト p. 11～p. 12
- 10 訳読：テキスト p. 13～p. 14
- 11 訳読：テキスト p. 14～p. 15
- 12 訳読：テキスト p. 16～p. 17
- 13 訳読：テキスト p. 17～p. 18
- 14 訳読：テキスト p. 19～p. 20
- 15 訳読：テキスト p. 20～p. 22

6. 成績評価方法：

平常点（訳読の回数と精度）80%、ノート（予習・復習の質）20%

7. 教科書および参考書：

Jean-Paul Sartre, 《Résistance 》, in Les Temps Modernes, No609, 2000, pp.1-22.

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回 1.5 ページ分を受講者全員で訳読していきます。予め担当者を決めませんので、各自がきちんと予習をして授業に臨む必要があります。ノートに和訳を準備してきてください。授業中に添削したノートを見直して文法メモを補うなど、復習も十分に行いましょう。

9. その他：なし

連絡先メールアドレス：hrykmdrkw@gmail.com

オフィスアワーについては開講時にお知らせします。

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：翠川 博之（非常勤講師）

講義コード：LB42206, **科目ナンバリング：**LHM-FRE201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語の文章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read a French text

3. 授業の目的と概要：

J. P. =サルトルの短編小説「壁」の全文を読みます。作品の背景は 1939 年のスペイン内乱。ファシスト政府軍に捕えられた人民戦線派の一市民が主人公で、その一人称語りによって物語が展開します。明日の夜明けまでに仲間の隠れ家を明かさなければ、処刑場の「壁」の前で銃殺される。限界状況における人間の自由と偶然性に翻弄される人間の運命が、簡潔で緊迫感のある文体で描き出されています。

この作品を授業で読む目的は二つです。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を正確に読むスキルの習得。文学的表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をします。訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術をものにしましょう。

4. 学習の到達目標：

- ① 高度な文法知識を身につけて、文章を正確に読めるようになる
- ② 一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる
- ③ 文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 テキストの背景説明
- 2 訳読：テキスト p. 213～p. 214
- 3 訳読：テキスト p. 214～p. 215
- 4 訳読：テキスト p. 216～p. 217
- 5 訳読：テキスト p. 217～p. 218
- 6 訳読：テキスト p. 219～p. 220
- 7 訳読：テキスト p. 220～p. 221
- 8 訳読：テキスト p. 222～p. 223
- 9 訳読：テキスト p. 223～p. 224
- 10 訳読：テキスト p. 225～p. 226
- 11 訳読：テキスト p. 226～p. 227
- 12 訳読：テキスト p. 228～p. 229
- 13 訳読：テキスト p. 229～p. 230
- 14 訳読：テキスト p. 231～p. 232
- 15 訳読：テキスト p. 232～p. 233

6. 成績評価方法：

平常点（訳読の回数と精度）80%、ノート（予習・復習の質）20%

7. 教科書および参考書：

Jean-Paul Sartre, 《Le Mur》, dans Œuvres romanesques, Gallimard, 《Bibliothèque de la Pléiade》, 1991, pp.213-233. プリントを配付する。

8. 授業時間外学習：

毎回 1.5 ページ分を受講者全員で訳読していきます。予め担当者を決めませんので、各自がきちんと予習をして授業に臨む必要があります。ノートに和訳を準備してきてください。授業中に添削したノートを見直し文法メモを補うなど、復習も十分に行いましょう

9. その他：なし

連絡先メールアドレス：hrykmdrkw@gmail.com

オフィスアワーについては開講時にお知らせします。

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：尾崎 順一郎 (助教)

講義コード：LB35306, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

漢文訓読入門 (文法篇)

2. Course Title (授業題目)：

An introduction to reading classical Chinese texts in Japanese (1)

3. 授業の目的と概要：

この授業では漢文の文法事項を体系的に理解し、文法の面から漢文の読解力を向上させることを目的とし、文法事項 (文型、句形、語法、送り仮名など) に関する個々の性格、相互の関係、実際の用いられ方を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

受講生は本講を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

文法事項の解説とテキストの読解を行う。具体的には、授業の前半で個別の文法事項について解説し、後半で出席者とともにテキストの書き下し文と現代日本語訳の作り方を討論する。

[進度予定]

第01講 訓点と文型

第02講 再読文字

第03講 使役形

第04講 受身形

第05講 否定形 (1)

第06講 否定形 (2)

第07講 否定形 (3)

第08講 疑問形・反語形 (1)

第09講 疑問形・反語形 (2)

第10講 疑問形・反語形 (3)

第11講 比較形

第12講 限定形・累加形

第13講 抑揚形

第14講 練習問題

第15講 期末試験と解説

6. 成績評価方法：

予習プリント (50%)、期末試験 (50%)

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。参考書は授業中に紹介する。

References are handed out at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

授業中に配布する予習プリントを行う。

Students are required to submit class assignments.

9. その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15~12:45 とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on Fridays at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：尾崎 順一郎 (助教)

講義コード：LB45307, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

漢文訓読入門 (故事成語篇)

2. Course Title (授業題目)：

An introduction to reading classical Chinese texts in Japanese (2)

3. 授業の目的と概要：

この授業では故事成語への理解を深めつつ、漢文の読解力を向上させることを目的とし、故事成語の出典となるテキストを読み解き、その内容とともに関連する知識を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

受講生は本講を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

故事成語に関連するテキストを読み解く。具体的には、出席者とともにテキストの書き下し文と現代日本語訳の作り方を討論する。

[進度予定]

- 第01講 故事成語 (1)
- 第02講 故事成語 (2)
- 第03講 故事成語 (3)
- 第04講 故事成語 (4)
- 第05講 故事成語 (5)
- 第06講 故事成語 (6)
- 第07講 故事成語 (7)
- 第08講 故事成語 (8)
- 第09講 故事成語 (9)
- 第10講 故事成語 (10)
- 第11講 故事成語 (11)
- 第12講 故事成語 (12)
- 第13講 故事成語 (13)
- 第14講 故事成語 (14)
- 第15講 期末試験と解説

6. 成績評価方法：

予習プリント (50%)、期末試験 (50%)

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。参考書は授業中に紹介する。

References are handed out at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

授業中に配布する予習プリントを行う。

Students are required to submit class assignments.

9. その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15～12:45 とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on Fridays at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：谷山 洋三（准教授）

講義コード：LB41207, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

臨床宗教師とスピリチュアルケア

2. Course Title (授業題目)：

Interfaith Chaplain and Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

臨床宗教師は公共空間でスピリチュアルケア、宗教的ケアを提供する宗教者である。スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとはいいがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えれば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。臨床宗教師の実践に基づいて、この2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。

4. 学習の到達目標：

臨床宗教師が提供するスピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. チャプレンとビハラー僧
3. 「臨床宗教師」の誕生
4. 生活の中にある心のケア
5. スピリチュアルペイン
6. スピリチュアルな探求
7. 「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
9. 宗教的資源の活用
10. 宗教的ケア
11. 臨床宗教師の可能性
12. 臨床宗教師の資質
13. ワークショップ「死の体験」
14. ワークショップ振り返り
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[50%]、出席・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書（必ず購入してください）：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年（2600円＋税）

参考書：鎌田東二（編）『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年

8. 授業時間外学習：

予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する

復習：授業で学んだことについて、実際の場면을想像しながら考察する

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（助教）

講義コード：LB31302, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？

2. Course Title (授業題目)：

Clinical thanatology thinking about life from death: What is a person's death?

3. 授業の目的と概要：

人は自らの死を予め体験することはできないが、他者の死を通して学ぶことはできる。人間だけが、「自分も死ぬことを意識できる動物」である。死は「自然現象」であると同時に、自他の死を受容する「文化現象」である。

ヒトという生物の生である「人生」は、自己と他者である事物を結びつけ、それに意味を与えることで作られる。「偶然」のできごとを、「運命」の出会いとするなど、人の生は合理的な思考のみで生きているわけではない。人生そのものが、映画や小説のテーマになるように、人は非合理的な生き方に意味を見出している。人があえて「合理的ではない行為」をとるとき、その行為には深い心理的な意味が込められている。人の死に関わる「葬送」、「慰霊（供養）」、「墓参」なども非合理的な行為であるが、当事者にとって意味ある行為となる。自他の死の受容についても同様に合理と非合理、立場の相違によって揺れる。本講では、具体的な「他者の死」から「自己の死」をデザインすることを通して、私たち一人一人の人間としての「生」を摸索する一助としたい。

4. 学習の到達目標：

1. タブー視されがちな自他の「死」を、具体的な事例を通して考えることによって、自らの「生」の意味をさぐる。 2. 「延命治療」や「尊厳死」、脳死、臓器移植、緩和医療、死に場所、「終活」、葬儀など現代の問題について自ら考える力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）について事例を通して考える。それぞれのテーマについて1-2回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、死に方・生き方には普遍的「正解」はなく、それぞれの人やおかれている状況によって異なることを学ぶ。

0. イントロダクション：闇の中でこそ光が。
 1. 現代人の死に場所：病院死と在宅死。
 2. 「ホスピス」とシシリー・ソンドース。
 3. 緩和医療におけるスピリチュアルケア。
 4. 臓器は誰のもの：死の判定と臓器移植。
 5. あらかじめ決める：「安楽死」と「尊厳死」。事前指示とその問題。
 6. 自らの死をデザインする：「エンディング・ノート」, 「終活」。
 7. 死を受容する心理：キューブラー=ロスの五段階説。
 8. グリーフ・ワークとしての5段階と意味再構成。
 9. 「よく生きる」ことと「ただ生きる」こと：生きる価値とは何か。
 10. 「ある少女の選択」：いのちは誰のもの？。
 11. 「死者ヴィジョン」の出現：医学的説明と文化的意味。
 12. 「ここは天国」：認知症の世界と死の受容。
 13. 寝たきりの生：『病牀六尺』の世界。
 14. グアテマラの宗教文化。

6. 成績評価方法：

毎時ミニット・ペーパー提出。学期末課題論文提出。

7. 教科書および参考書：

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。Additional references and texts will be provided by the instructor.

8. 授業時間外学習：

40分程度の予習。About 40 minutes of study is required.

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（助教）

講義コード：LB41303, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

悲嘆学試論

2. Course Title (授業題目)：

Grief Studies Theory

3. 授業の目的と概要：

人は生きていく上でさまざまな「悲嘆 (grief)」と遭遇する。自分にとってかけがえのないもの：自分のいのち、大切な人、ペット、故郷、記念となる物…を「喪失 (loss)」した時、私たちは心理面はもちろん、身体的にも痛みを覚え、さまざまな症状をおこす。「悲嘆」とそれへの対応は、人類のはじまりより共にあるものの、「学」として確立された領域というより、むしろ実践的な「知恵」の側面をもつ。本講ではこうした現状を踏まえ、悲嘆をケアすること (grief care) と、悲嘆からの立ち直り (grief work) について、「宗教」の役割にも触れつつ考えていきたい。

4. 学習の到達目標：

1. 悲嘆という現象について理解する。2. 悲嘆を癒す「グリーフ・ケア」について学ぶ。3. 悲嘆からの立ち直り「グリーフ・ワーク」について学ぶ。4. 悲嘆と共に生きることにについて考える力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）について、できる限り事例を通して考える。それぞれのテーマについて1-2回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、自ら考えるとともに他者の考えを知り、考えを深める。

0. イントロダクション；「永訣の朝」 他者の死と私

1. 悲嘆と喪失

2. 苦しみの意味づけ

3. 自己の死と予期悲嘆

4. 看取り

5. 死別の癒し：葬儀・宗教儀礼の意味

6. 意味再構成理論

7. 『子を喪へるの親の心』

8. 災害死

9. 犯罪被害

10. 自死

11. 死者におくる卒業証書

12. 民間信仰：地蔵によるケア

13. 信仰治療 宗教と癒しなど

14. 現代的死の受容：遍在と自然回帰

15. その他

6. 成績評価方法：

毎時ミニット・ペーパーの提出。学期末課題論文提出。

7. 教科書および参考書：

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。Additional references and texts will be provided by the instructor.

8. 授業時間外学習：

40分程度の予習。About 40 minutes of study is required.

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LB31406, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

よりよい研究のための倫理

2. Course Title (授業題目)：

Research Ethics and Research Integrity

3. 授業の目的と概要：

人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方で導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生や大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学生や大学院生が、よい研究者になるために、どのような仕方で行うのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。

この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後で、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。

4. 学習の到達目標：

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 責任ある仕方で行う研究のために研究者が遵守すべき様々な規範について学び、そのような規範を遵守すべき理由を理解すること。
3. 研究不正行為のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになること。
4. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、以下のテーマを取りあげます。

1. イントロダクション
2. 実験研究の倫理
3. フィールド研究の倫理
4. 文献研究の倫理
5. 科学者の責任
6. ピアレビュー
7. 研究の再現性
8. 利益相反
9. 軍事研究
- 10～15. 研究に関するワークショップ

6. 成績評価方法：

授業中の討論やワークショップへの参加（60%）、レポートの提出（40%）

7. 教科書および参考書：

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年

8. 授業時間外学習：

CITI Japan や学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。

9. その他：なし

ワークショップは学期中2日間を使って、集中して行います。ワークショップの開催日程を決めるため、初回の授業（4月9日に実施）に必ず出席してください。初回の授業に出席することができない場合には、講義担当者の原塑（電子メール：plastikfeld@gmail.com）に電子メール等で連絡してください。

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB32207, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：英語

1. 授業題目：

近代日本の歴史

2. Course Title (授業題目)：

Modern Japanese History

3. 授業の目的と概要：

授業は、世界史の一環として日本の近代史を学ぶ。世界という観点から日本を学ぶことによって、日本の近代・現代世界における位置の理解を深める。扱う時代は 1800 年から現在までである。

日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学の考え方を学ぶ。

与えられた日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけでなく、英論文作成を学ぶことができる。

4. 学習の到達目標：

近代日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。

英語での歴史学のあり方を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. The Twilight of the Tokugawa: Japan in 1800
2. The Best of Times, the Worst of Times: Japan 1790-1844
3. Black Ships and Revolutions
4. Making Meiji: Establishing the State
5. New Days in Meiji Japan: The Cultural Revolution
6. Wither Imperialism?: Early Meiji Foreign Relations
7. Imperialism II: Bestial Inoculation
8. Can't Win for Losing: World War I and Imperial Democracy
9. Erotic, Grotesque, Nonsense: Authoritarian Backlash
10. Apocalypse: The Greater East Asian War
11. Atomic Peace: The American Occupation
12. The Three Deaths: Economy, Labour, Politics, 1950-1960
13. The Miraculous and the Mundane: Economy and International Relations, 1960-80
14. Gilded Toilets and Bursting Bubbles: Economic Growth and Crash
15. The Post-Postwar

6. 成績評価方法：

リアクション・ペーパー[45%] ・地図テスト[10%] ・出席・ディスカッション[45%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

2 回資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

2 reading responses are to be submitted during the semester.

9. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB42207, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：英語

1. 授業題目：

日本文化と社会

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Culture and Society

3. 授業の目的と概要：

授業は、現在日本の文化・社会と日本や海外においてそれを対象とする学問を紹介する。日本文化・社会に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学や社会学の考え方を学ぶ。

参加する学生の日本における経験そのものは資料となり、ディスカッションや発表でそれをアカデミックな視点から考え方を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

現在日本文化や社会に関する歴史的な問題や主要な文献を意識する。

「日本文化」という理念の神秘性をなくし、日本文化に関する本質主義的な思想を問題視する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction: The myth of national culture
2. Background: Japan since World War II
3. Middleness and disparity: Class in Contemporary Japan
4. Gender and work
5. The changing nature of employment
6. Education and class
7. Youth, crime, and punishment
8. Family life: men
9. Family life: women
10. Self and other in Japan
11. Invisibility and minority
12. Presentations
13. Presentations
14. The foreign in the everyday
15. 3.11

6. 成績評価方法：

発表[40%]・リアクション・ペーパー[20%]・出席・ディスカッション[40%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

Reading responses are to be submitted during the semester.

9. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：高橋 原（教授）

講義コード：LB43304, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

宗教、スピリチュアリティ、心理療法

2. Course Title (授業題目)：

Religion, Spirituality and psychotherapy

3. 授業の目的と概要：

宗教体験と心理療法について、危機に際して発動するスピリチュアリティという視点から考える。

4. 学習の到達目標：

スピリチュアリティとは何か、宗教体験と心理療法の関係から自分なりに説明できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

人生の危機に際して発動するスピリチュアリティの諸相と、その統御を組み込んだ心理療法的な実践について次のようなトピックを取り上げる（順不同）。

1. 「無意識の発見」と原始的心理療法
2. 悪魔祓（エクソシズム）について
3. 「野の医者」と心理療法
4. 人生の危機とスピリチュアリティの発動（吉本伊信、エリザベス・キューブラ＝ロス、その他）
5. 宗教的体験と心理療法

6. 成績評価方法：

期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。

7. 教科書および参考書：

東畑開人『野の医者は笑う』（誠信書房）他、適宜、授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献により理解を深める。

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：行場 次朗, 戸島 貴代志, 阿部 恒之, 木村 邦博, 坂井 信之, 辻本 昌弘, 小林 隆, 小泉 政利（教授 他）

講義コード：LB43505, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目)：

Ethical problems in research and practical activities

3. 授業の目的と概要：

人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聴き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。

4. 学習の到達目標：

人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人間と技術
3. 科学と倫理
4. 人を対象とした実験研究における倫理
5. 動物を対象とした実験研究における倫理
6. 社会心理学実験における倫理
7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理
8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向
9. 企業における研究・特許等の問題について
10. フィールドワークにおける倫理の問題
11. 海外でのフィールドワークの注意点
12. 聴き取り調査の実践と倫理の諸問題
13. 研究倫理の国内外の動向
14. 研究不正の防止と対応
15. 全体のまとめとレビュー

6. 成績評価方法：

出席 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：高橋 原, 大村 哲夫（教授、助教）

講義コード：LB34501, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

死生学と宗教文化

2. Course Title (授業題目)：

Thanatology, Religion and Culture

3. 授業の目的と概要：

死生学と宗教文化に関する文献を毎回一本読み、人間の死と生について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

人間がどのように死と向き合ってきたのか、多様な文化の視点から考え、表現する視点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

『死生学年報』（東洋英和女学院大学死生学研究所）のバックナンバーから下記の論文を取り上げる（予定）。
具体的な進め方については初回に話しあって決める。

- (1) 死生学の誕生と死生観の探求 ―死をめぐる新しい文化の広がり― 島 蘭 進 2013
- (2) 「スピリチュアリティ」概念の再考 ―スピリチュアリティは霊的世界観を前提とするか?― 安藤泰至 2008
- (3) 死者の「祭祀」と「供養」をめぐって 池上良正 2006
- (4) 王朝人における死への眼差し ―臨終行儀と往生夢― 河東 仁 2006
- (5) 江戸の怪談にみる死生観 佐藤弘夫 2013
- (6) 宮沢賢治の悲嘆体験と立ち直りの過程について―妹トシの死との関連において― 平山正実 2005
- (7) 日本のシャーマニズムと死者との交流 佐藤憲昭 2014
- (8) 生のかたち、死のかたち ―西洋の美術表現を中心に― 佐倉 香 2007
- (9) ヒルデガルト・フォン・ビンゲン ―幻視と生きる― 鈴木桂子 2011
- (10) 死の舞踏の成立と伝播 小池寿子 2009
- (11) 死後の生―死生学における「宗教の領分」― 鶴岡賀雄 2011

6. 成績評価方法：

出席回数・授業内の発言などから総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

毎回の課題論文をコピーして配付する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献により理解を深める。

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：高橋 原, 木村 敏明, 谷山 洋三（教授 他）

講義コード：LB44501, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. Course Title (授業題目)：

Practice of care by religious specialists

3. 授業の目的と概要：

宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者を招く回があります。

各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師の理念
2. グリーフケアと宗教
3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

6. 成績評価方法：

出席回数、毎回提出のミニットペーパーによる。

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが授業内で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献等で学習を深める。

9. その他：なし